

令和4年度 教育課程研究協議会 【小学校家庭科部会】

家庭科で求められる資質・能力の育成

【1】 学習指導要領の趣旨及び要点

【2】 指導と評価の一体化

【3】 ICTを活用した授業改善



I 改訂の趣旨

家庭科目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

資質・能力

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。

I 改訂の趣旨

○家庭科においては、家庭生活や社会環境の変化に等により、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。

○家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することができる資質・能力の育成が求められている。これら課題を踏まえ、家庭科で求められる資質・能力の育成を目指す。

2

I 改訂の趣旨

家庭科目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

資質・能力

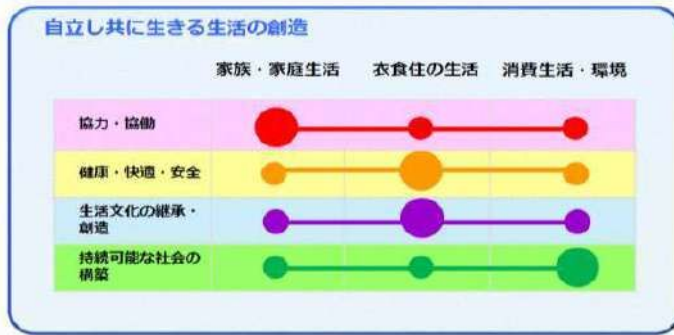
- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
知識及び技能
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
思考力、判断力、表現力等
- (3) 家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。
学びに向かう力、人間性等

2 改定の要点

(2) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせとは

<生活の営みに係る見方・考え方>

家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること。



→「見方・考え方」は、内容等によって**重点の置き方**が変わったり異なる視点を用いたりする場合がある。

5

見方・考え方の捉え よりよい生活の窓

協力協働

生活文化



(例)
構想・計画
作品(料理)



健康快適安全

持続可能

見方・考え方の捉え よりよい生活の窓

協力協働

生活文化

B 食生活

【文化】
だし

【健康】
減塩

【快適】
おいしく

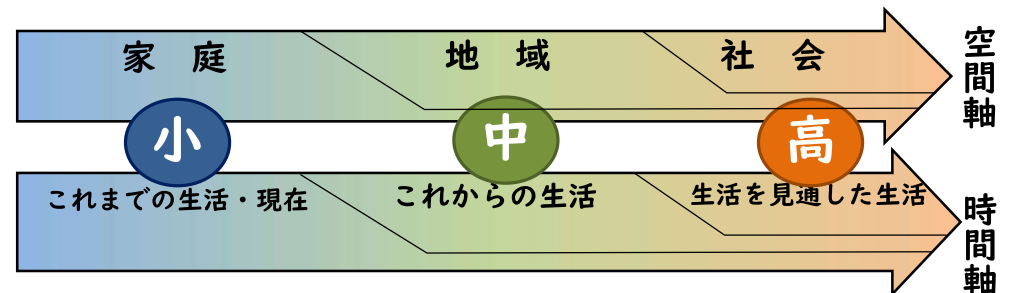
健康快適安全

持続可能

2 改訂の要点

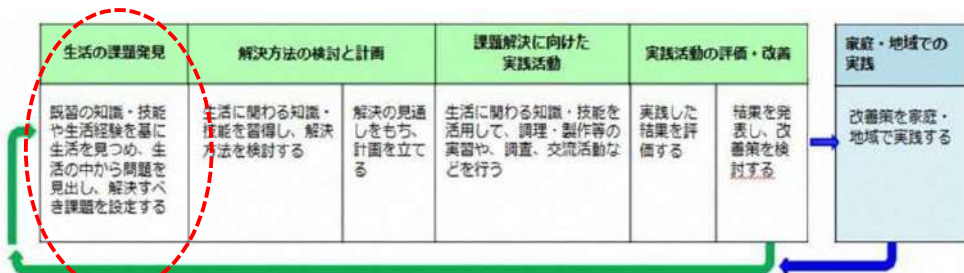
(3) 空間軸と時間軸の視点から学校段階に応じた学習対象の明確化

- ・空間軸の視点（小学校）：主に自己と家庭
- ・時間軸の視点（小学校）：現在及びこれまでの生活



2 改定の要点

(4) 学習過程をふまえた資質・能力の育成



家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程のイメージ 解説P.15小、65中

・各内容の各項目は、指導事項ア・イで構成

指導事項ア：「知識及び技能」の習得に係る事項

指導事項イ：「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る事項

※アで習得した「知識及び技能」を活用して

→内容A(1), A(4)は該当しない。

9

3 学習指導及び内容の改善

(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る

家庭の
多様化

・実践的・体験的な学習の一層の充実を図る

・調理及び製作において、一部の題材を指定

→「B 衣食住の生活」(2)「調理の基礎」ア(エ)では、加熱操作が適切にできるようにするために、ゆでる食材として **と** **など** を扱う。

→「B 衣食住の生活」(5)「生活を豊かにするための布を用いたものの製作」では、ゆとりや縫いしろの必要性を理解するために、日常生活で使用する **など** の製作を扱う。

※「など」・・・他のものを扱ってもよいが、指定されたものは必ず扱う。

3 学習指導及び内容の改善

(1) 社会の変化への対応

社会の
変化

「A 家族・家庭生活」

・ **または低学年の児童、等異なる世代の人との関わり** に関する内容を新設 (家族・家庭生活に関する内容に充実)

「B 衣食住の生活」

・ 食生活に関する内容を中学校との系統性を図り、食事の役割、調理の基礎、栄養を考えた食事で構成 (食育の推進に関する内容の充実)
・ 和食の基本となる **の役割** や **季節に合わせた** **など**、日本の伝統的な生活について扱う。(日本の生活文化に関する内容の充実)

「C 家族・家庭生活」

・ 中学校との系統性を図り、 **や消費者の役割** に関する内容を新設する。また、消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容の改善を図っている。

(自立した消費者の育成に関する内容の充実)

3 学習指導及び内容の改善

「この学習を通してどんなことを子どもたちが学ぶのか」

「B 衣食住の生活」

・ 食生活に関する内容を中学校との系統性を図り、食事の役割、調理の基礎、栄養を考えた食事で構成

(食育の推進に関する内容の充実)

・ 和食の基本となる **だしの役割** や **季節に合わせた着方や住まい方** など、日本の伝統的な生活について扱う。

(日本の生活文化に関する内容の充実)

「B 衣食住の生活」(2)「調理の基礎」ア(エ)では、加熱操作が適切にできるようにするために、**ゆでる食材として青菜とじゃがいも**などを扱う。

3 学習指導及び内容の改善

(3) 知識及び技能を実生活で活用するための内容の充実

「家族・家庭生活についての課題と実践」を位置付ける

「A家族・家庭生活」の(4)

- 実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮する。
- 2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。

4 先生にとっても 児童にとってもプラスに

○教科の専門性

- ・校内での指導力をあげていく工夫
- ・物的・人的環境を整える
- ・時間数確保の工夫

○他教科との関連

- ・関連していることを意識 子供の実態

○カリキュラム・マネジメント

- ・「いつ、どのタイミングで、何を」

3 学習指導及び内容の改善

基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る

「個々の技能の差を感じ、指導にあたって工夫が必要だな・・・」

1人1台端末の活用によって・・・

